ごあいさつ

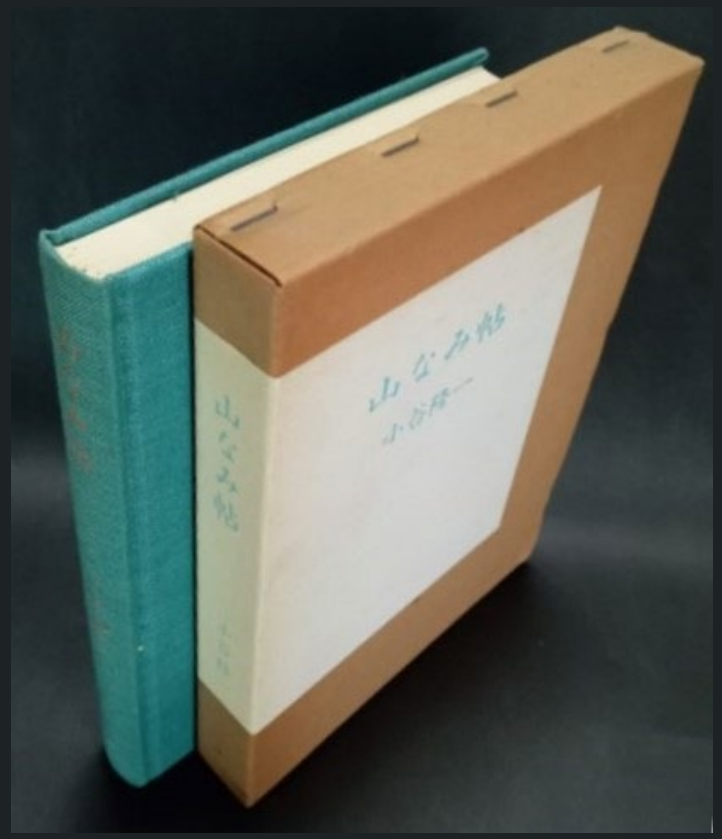
小谷隆一（こたに りゅういち、1924-2006）収集の「小谷コレクション」は、山岳図書に関する一大コレクションですが、2003（平成15）年、信州大学に寄贈され、現在附属図書館に収蔵されています。

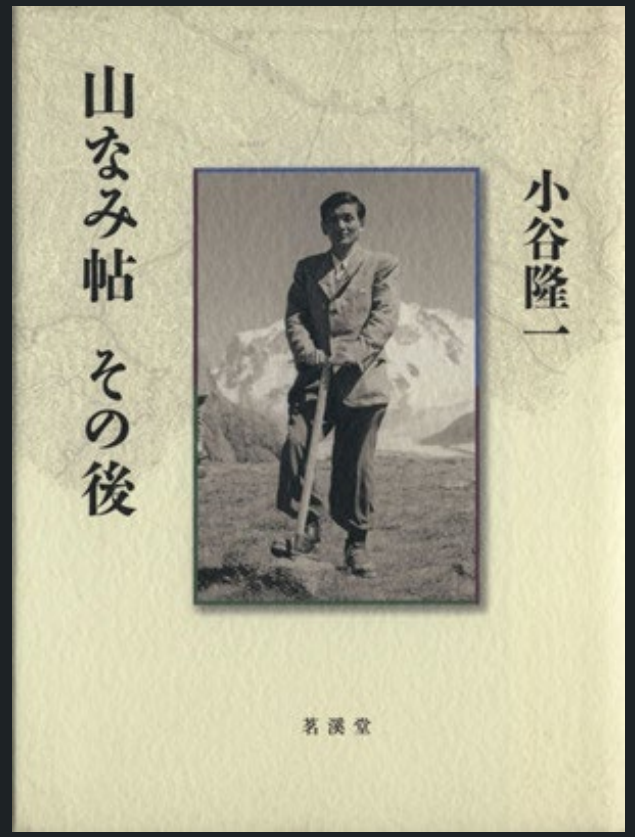
小谷は、中学時代の恩師のもとで登山の薫陶を受けて以来、松本高等学校や東京帝国大学でも山岳部に属し、山へと傾倒を深めました。家業を継ぐ傍ら、カラコルム・ディラン峰遠征の隊長を務めるなど本格的な登山へと進み、一方で山岳図書の収集にも努め、山岳図書収集家の小林義正の高嶺文庫を引き継いで一大コレクション「小谷コレクション」をつくりました。

本企画展では、小谷の生誕100年にあたり、この機会に小谷コレクションを紹介するとともに、小谷の足跡を回顧します。

2024年10月

信州大学 大学史資料センター





山と山書をこよなく愛した男

その著書を通して語る山のたのしさ

小谷隆一は京都の商家に生まれ、少年時代にスキーと山登りのたのしさを知る。登山のために松本高等学校に進学し、その後も国内外の高峰を登攀した。また、恩師の「**山は足のためのものばかりではない**」という言葉を心に刻み、山の本を読み、山を深く知ることを喜びとした。そして、その経験を数多くの友と惜しみなく分かち合った。

『山なみ帖』と『山なみ帖 その後』は、山と山書をこよなく愛した男の体験を通して、友として我々に山の魅力を伝えている。

今回、その著書や自筆文に描かれた小谷隆一の山を慈しむ姿を紹介する。

こたに　りゅういち

小谷 隆一　～年 譜～

1924-1947（1/5）

	生涯（学生・会社経営・経済活動）	西暦	和暦	年齢（満）	山とのかかわり		本との出逢いと収集	関係する主な人物	小谷隆一著『山なみ帖』（1981.8）・『山なみ帖 その後』（2008.11）・他 （）内は執筆時
	京都市中京区新町通三条に生まれる。 8月16日 姉と妹の3人兄弟	1924	大正13						
		1934	昭和 9	10		スキーを始める。			
京都第二商業学校時代	**旧制京都第二商業学校入学**	1937	昭和12	13					
		1938	昭和13	14	1月～2月	箱館山、愛宕、花背へスキーに行く。			
	祖母が亡くなる（享年74歳） 6月	1939	昭和14	15	1月～2月	野沢、妙高、愛宕、花背へスキーに行く。			
		1940	昭和15	16	3月30～4月5日 4月29日 5月18～19日 12月30日	森本次男先生の薫陶を得て山岳部に入る。 森本先生や友人たちと1週間ほど石徹白でスキー合宿 ポンポン山に登る。 この頃から山に魅せられ、森本先生の著『京都北山と丹波高原』を片手に、主に京都北山や奥美濃を歩く。 麗杉荘に宿泊する。 石徹白でスキー合宿	この頃から本を集め出す。 森本先生の随筆集『山と漂泊』、奥美濃の紀行文『樹林の山旅』などを愛読する。	森本次男	石徹白高原スキーの思い出『石徹白懐古』（3月）
		1941	昭和16	17	～1月6日 3月25～30日	石徹白でスキー合宿 山岳部の主将を務める。 この後も、奥美濃、比叡山などに行き、たびたび麗山荘を訪れる。			
	祖父が亡くなる（享年84歳） 12月	1943	昭和18	19					
松本高等学校時代	**松本高等学校入学（2年浪人）** 4月 思誠寮に入寮 勤労奉仕、山岳部入部 6月 2年生学徒動員 7月 寮は1年生だけになり、総務幹事長（寮長）を命じられる。 1年生にも動員命令がくだり、予備士官学校へ入隊 12月	1944	昭和19	20	5月30日 6月 6月30日 ～7月3日 10月29日 12月22日～25日	単独で美ヶ原の王ヶ鼻へ登る。 **大木保太郎と共に山岳部に入部** 奥穂高行（2年生との最後の山行、これより後は1年生部員のみの行動となる） **友人2人と共に美ヶ原に登り、2人の信濃乙女と出会う。** 黒菱スキー		大木保太郎（同級生） 辻邦生（同学年） 北杜夫（斎藤宗吉・1年後輩）	創作『単独行』（8月16日）
	軍隊に入隊 1月10日 復学 10月6日 入寮 10月15日 西寮創設準備に関わる。 10月末～ 思誠寮にあらたに西寮を加え新発足し（昭和23年まで）、西寮の寮長を務める。 12月1日	1945	昭和20	21		終戦の日まで山岳部の活動停止 終戦後、村上雅美、朝比奈菊雄両先輩他、OBが松本を訪れる。	『わらぢ』の復刊を思い立つ。栗林行二（クラスメイト）が『わらぢ』第7号をまとめる（昭和21年発刊）	村山雅美（先輩） 朝比奈菊雄（先輩） 栗林行二（同級生）	
	市長、工場長、校長ら来賓の下に開寮式が盛大に行われる。 3月4日 小谷も西寮で生活を送る。 春、寮主催映画祭で山岳映画家の塚本閤治氏と会う。	1946	昭和21	22	5月18日 6月8日～9日 7月23日～29日 8月2日	烏帽子岩 ロック・クライミング練習 松高ルンゼを覗く **夏季奥又白合宿** 昭和15年に起きた転落死亡事故の慰霊碑の前にて黙祷 北鎌尾小屋偵察		塚本閤治 朝比奈菊雄（先輩） 栗林行二	
	松本高等学校文科Ⅰ卒業（第26回生） 3月20日 **東京帝国大学法学部入学** 4月	1947	昭和22	23		**スキー山岳部に在籍** スキー・登山にいそしむ。松高山岳部とも交流する。			ある秋の単独行動（10月）

生涯（学生・会社経営・経済活動）	西暦	和暦	年齢（満）	山とのかかわり	本との出逢いと収集	関係する主な人物	小谷隆一著『山なみ帖』（1981.8）・『山なみ帖 その後』（2008.11）・他 （）内は執筆時
東京大学時代	1948	昭和23	24	5月7日～9日 谷川岳新入部員歓迎登山 7月8日～18日 劔沢夏期合宿 12月22日～1月6日 **赤石岳冬期合宿** 小谷はサブリーダーを務める。（松高山岳部から三尾が参加） 赤石パーティと聖パーティ（小谷）に別れ出発するも、赤石で遭難事故が起こり、仲間一人を失う。小谷も猛吹雪の中遭難しかける。このとき、本当に山の怖さを知ったと言っている。 1月下旬～2月下旬 谷川寮スキー（一般募集） 3月17日～24日 八方尾根スキー合宿			
	1949	昭和24	25	5月22日～29日 赤石岳遺体収容行（一次） 6月4日～6日 美ケ原－武石峠－袴越（松高の仲間と） 7月14日～22日 奥又白夏期合宿（松高山岳部 三尾・大木参加） 12月16日～27日 乗鞍スキー合宿（新制大学生を交えた初めの合宿） 12月29～30日 谷川寮スキー（一般募集） 西京高校合宿（細野）に参加			
東京大学法学部政治学科卒業 **家業を継ぐため伊勢藤紙工（株）入社** 学生時代に知り合った松下貞子と結婚 3月 4月 11月	1950	昭和25	26	1月 はじめて貞子さんと草津へスキーに行く。 5月 **第1回 京都山岳連盟主催 講習会（金毘羅山）** 8月 叔父が黒部で遭難		松下貞子 角倉太郎	冬山の帰途（2月）
	1951	昭和26	27	社会人になってからも、京都北山や北アルプスに登り、冬は欠かさずスキーに行く。 6月 第2回 京都山岳連盟主催 講習会（金毘羅山）			
取引先の住友電線（現住友電工）の北川一栄（後に社長）に計算機用の連続印刷用紙（ビジネスフォーム）の開発を打診される。	1952	昭和27	28	貞子や会社の社員と一緒にバスでスキーに行く。		北川一栄（住友電線）	晩秋の美ヶ原（4月）
日本青年会議所（日本JC）に入る。 国内初のビジネスフォームの製造に成功。株式会社イセトーの礎を築く。	1953	昭和28	29	10月21日～27日 石鎚 国体登山 参加者500名 Aコースのサブリーダを務める 日本山岳会入会		塚本幸一（ワコール） 裏千家の千宗室（現玄室）	
初めての海外出張で、ドイツを中心にヨーロッパに4カ月間滞在（当時専務） **ドイツ・デュッセルドルフに紙と印刷技術の粋を集めた総合見本市を見に行く。ギーベラー社（ドイツ）のミューラー社長と出会い親交を結ぶことになる。** **ビジネスフォーム印刷機ギーベラー1号を導入する。** **コンツェット・フーバー社（スイスの印刷機メーカー）のレト・コンツェット社長と出会い、親交を深めることになる。** 5月20日 9月	1954	昭和29	30	7～8月 **社用でヨーロッパ訪問の途次、初めてスイス・アルプスを訪れ、ヴェッターホルン、ユングフラウ、マッターホルンに登る。** **エミール・ストイリ、ヴィリー・ストイリの親子と知り合う。以降、グリンデルワルトを好み、何回か訪れる。** **ミュンヘンにバウワー氏を尋ね、カラコルムや遠征の情報知識を得る。**		**エミール・ストイリ** **ヴィリー・ストイリ** **コンツエット一家（グリンデルワルト：ホテル・クロイツ・アンドポスト）** **ポール・バウワー** **ミューラー社長** **レト・コンツェット**	
	1955	昭和30	31				バウアー氏を訪ねて（6月） アルプス紀行（8月）
2回目の訪欧	1958	昭和33	34	**スイス・アルプスを訪れ、ピラトゥス、ヨッホパスでスキーを楽しみ、エギーユ・デュ・ミディ、ゴルネルグラート、ユングフラウに登る。グリンデルワルトでエミール・ストイリに会う。**			
	1959	昭和34	35				ヨーロッパ・アルプスの断片（10月） いだてんアルプス行（11月）

生涯（学生・会社経営・経済活動）	西暦	和暦	年齢（満）	山とのかかわり	本との出逢いと収集	関係する主な人物	小谷隆一著『山なみ帖』（1981.8）・『山なみ帖 その後』（2008.11）・他 （）内は執筆時
京都青年会議所（日本JC）の理事長に就任し、京都でも名が知られるようになる。	1960	昭和35	36	このころより海外登山の計画に入る。			
会員が1国1社しか許されない、エフォルマ（ヨーロッパフォーム印刷協議会）に加盟し、国際的な情報交換を始める。	1962	昭和37	38				
日本青年会議所会頭就任	1964	昭和39	40			牛尾治朗（ウシオ電機）	
	1965	昭和40	41	5～6月 京都府山岳連盟カラコルム・ヒマラヤ登山隊隊長としディラン（7,273m）初登頂に挑むが、天候の悪化で山頂を直前にして断念する。		（ディラン峰遠征隊員：京都カラコルムクラブ） 塚本珪一 北杜夫 松田禎夫 小山 貢 中山幹夫 高田直樹 高橋 正 土森 譲 上田純三	塚本閤治氏の思い出（11月） ヒマラヤとお茶（12月） わが青春時代の寮歌（1960年代後半） ディラン峰（1960年代後半） 北杜夫君とカラコルム（1960年代後半）
日本ビジネスフォーム印刷協議会が発足し、初代会長に就任 4月 伊勢藤紙工（株）代表取締役社長就任（四代目社長） 10月 ヨーロッパから吸収した技術を武器に、全国展開を進める。 取引相手は、中央省庁や地方自治体、大手都銀、電力会社など約5千社に及ぶ。	1966	昭和41	42		ディラン峰遠征を書き下ろした『白きたおやかな峰』（北杜夫著）が出版される。		登山とは（7月）
	1967	昭和42	43				京都北山（1月） 『白きたおやかな峰』私感（2月） 『京都山岳』（6月） ナガールのハイポーター（7月）
	1968	昭和43	44				グリンデルワルトの回想（2月） アールベルクのスキー行（12月）
京都経済同友会代表幹事就任（1976年まで）	1969	昭和44	45			塚本幸一	山の道具今昔（11月）
	1972	昭和47	48				サン・モリッツ・スキー行（2月）
京都府スキー連盟会長就任	1973	昭和48	49				
	1974	昭和49	50		小林義正氏から<高嶺文庫>を一括して譲り受ける。 坂戸勝巳、島田巽、近藤信之氏等、山岳書を通じての交友関係が広がる。 山岳書収集について阿部恒夫氏の協力を得る。	小林義正（前丸善役員） 角倉太郎（丸善に勤務。京都府山岳連盟元会長） 坂戸勝巳 島田巽 近藤信之 阿部恒夫	
	1975	昭和50	51	ディランに初登頂した因縁のハンス・シェル氏とパキスタンで顔を合わせ、その後交友を深める。	10ヵ月かけて、カード作りや収納場所の整備をし、ようやくコレクションの整理を終える。	ハンス・シェル	
	1976	昭和51	52		ロンドンの古書店フランシス・エドワード、ガストン、カーベンディシュを訪ね、『クリスチャン・アルマ―のガイド手帳の複写本』などを購入する。以降ヨーロッパ出張の際にはたびたびロンドンに立ち寄り、山岳書を求める。		カラコルムの北杜夫君

1977-1997 (4/5)

生涯（学生・会社経営・経済活動）	西暦	和暦	年齢（満）	山とのかかわり	本との出逢いと収集	関係する主な人物	小谷隆一著『山なみ帖』(1981.8)・『山なみ帖 その後』(2008.11)・他 ()内は執筆時
京都商工会議所副会頭就任（2001年まで）	1977	昭和52	53		パリの骨董市で谷文晁の『日本名山図会』を購入		シャモニイかシャモニクスか（2月） パリの『日本名山図会』（8月）
	1978	昭和53	54		自らの蔵書も含め約3000冊の山岳書を整理し終えた。 以後、コレクションの充実を図る。		コレクターの悦び（2月）
伊勢藤紙工、伊勢藤工業、（株）伊勢藤三社合併し、代表取締役社長就任社名をイセト紙工（株）に変更	1979	昭和54	55				
	1980	昭和55	56	京都カラコルム・クラブ隊隊長として、中国コングール（7,719m）に偵察遠征に行く（南面ルート）。			岳友ハンス・シェル（1980年頃） 英国の古書店（1980年頃） ロンドンで求めた山の本（1980年頃） ボウモントの著書について（1980年頃）
	1981	昭和56	57	7月　コングール峰遠征（北面ルート）　三隊員を失う。	『山なみ帖』（東京・茗渓堂）刊行		あとがき（7月） 『山なみ帖』のこと（8月） パリで見つけた『日本名山図会』（8月） 山なみ帖（1981年頃）
京都府山岳連盟会長就任	1983	昭和58	59				私のヨーロッパ旅行（3月） スイス・春スキーの楽しみ（6月）
藍綬褒章受賞	1984	昭和59	60				
	1986	昭和61	62	4月30日　日中友好太白山合同登山隊総隊長として太白山に登頂			
ロータリークラブのガバナーとして、ポリオワクチン購入費の募金活動に尽力する。集められた寄付金は、翌年6月末の任期終了時には2億円を超える。	1987	昭和62	63		梅棹忠夫と山岳書について対談する。	梅棹忠夫（国立民族学博物館長）	山を読んで楽しむ－梅棹忠夫氏との対談（10月） 「私のスキーはじめ」（12月）
国民体育大会が京都で行われ、登山競技も挙行される。 京都ロータリークラブからRI（国際ロータリー）理事として関わる（2000年まで）	1988	昭和63	64	10月	**京都丸善にて「山岳名著100選展－小谷コレクションより－」開催（京都国体記念協賛）**	阿部恒夫 角倉太郎（京都府山岳連盟前会長、長年丸善勤務） 松田禎夫（岳友） 塚本珪一（山岳連盟） 清水朝一（山岳連盟） 澤田恒太郎（中学同窓） 吉村重春（京都古書店大観堂主人）	山岳名著展始末記
	1989	平成元	65	7月11日　京都カラコルム・クラブ隊隊長として三度目のコングール峰登攀隊員9名全員が北稜ルートを初登攀 ベースキャンプを離れ、帰国の途に就いていた小谷は、北京の京倫飯店で成功の第一報を受け涙する。	京都古書大即売会で『わらぢ』の創刊号～第7号を入手する。村山雅美、山上良夫、大木安太郎らの井上増次郎先生宛の手紙を見つける。（11月）	井上増次郎（「わらぢ」の持ち主） 慧子（井上先生の長女）	
	1990	平成2	66				松本高等学校山岳部報『わらぢ』（3月） ヨーロッパ・アルプスでのスキー（12月）
京都府公安委員長就任（1996年まで）	1991	平成3	67				写本『秋山記行』のご対面（6月）
	1992	平成4	68				『弘道』（7、8月） 清掃登山（8月）
	1995	平成7	71				晩秋の信濃路（9月）
毎分300メートルの両面カラー印刷可能な大型高速印刷機器を開発し、NTTに採用される。	1996	平成8	72				「晩秋の美ケ原」とその後（7月）
代表取締役会長就任　6月 社名を（株）イセトーに変更	1997	平成9	73				グリンデルワルトとその常宿（3、6月） 「晩秋の美ケ原」とその後（7月）

1998-2006（5/5）

生涯（学生・会社経営・経済活動）	西暦	和暦	年齢（満）	山とのかかわり	本との出逢いと収集	関係する主な人物	小谷隆一著『山なみ帖』（1981.8）・『山なみ帖　その後』（2008.11）・他 ()内は執筆時
京都府体育協会会長就任	1998	平成10	74				
	2001	平成13	77	10月27日	**信州大学開催の「山岳科学フォーラム」特別講演にて、梅棹忠夫が山岳書の拠点を信州大学に作ることを提案し、小谷を紹介する。**	梅棹忠夫 森本尚武（11代学長）	
イセトー取締役名誉会長就任　6月	2002	平成14	78	11月	『高山深谷』の復刻版制作の相談を受ける。	庄田元男	
小谷コレクションを信州大学に寄贈　3月 第2回信州大学山岳科学フォーラムで対談する。11月22日	2003	平成15	79	日本山岳会永年会員		森本尚武（信州大学11代学長）	山岳科学研究所（信州大学） 山の書物の楽しみ－小谷コレクションの展開と結末－
『小谷コレクション展示会2005』にて講演する。11月 （信州大学附属図書館）	2005	平成17	81				
逝去（享年81歳）　3月23日	2006	平成18					

○参考資料

江藤武人，藤田剛志編，『アルペン風』，財界評論新社，1967.
『岳人』527，東京新聞 中部日本新聞社 岳人社 ネイチュアエンタープライズ，1991，5月号，p170-171.
株式会社イセトー，『株式会社イセトー創業150周年社史「革新と継続の軌跡」』，2005.
雁部貞夫，『山のひと山の本　岳人岳書録』，木犀社，2008，p178-182.
郷土出版編集部，『旧制松本高校青春記』，郷土出版，1978.
小谷隆一，『山行記録ノート　1938－1959』，作成年不明
小谷隆一から庄田元男へ宛てた手紙のコピー，2002.12.3,2003.1.19.
小谷隆一，『山なみ帖』，茗渓堂，1981.
小谷隆一，『山なみ帖　その後』，茗渓堂，2008.
庄田元男書簡，2002.11.23,29,12.9,23,2003.1.17.
信州大学附属図書館，『小谷コレクション』，2007.
東京大学スキー山岳部，『部内雑誌』，1945－52.
松本高等学校山岳部，『わらぢ』第6号，松本高等学校校友会山岳部，1941.
松本高等学校山岳部，『わらぢ』第7号，松本高等学校山岳部，1946.
松本高等学校同窓会，『われらの青春ここにありき』，松本高等学校同窓会，1978.